

# 令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

学校法人 函館大谷学園

# 目 次

## 1. 法人の概要

---

(1) 基本情報	
①法人の名称	1
②主たる事務所の住所等	1
③目的	1
(2) 建学の精神	1
(3) 学校法人の沿革	2
(4) 設置する学校・学科等	3
(5) 学校・学科等の学生生徒等数の状況	3
(6) 収容定員充足率	3
(7) 役員の概要	4
(8) 評議員の概要	4
(9) 教職員の概要	5
(10) その他	5

## 2. 事業の概要

---

(1) 主な事業の達成状況等	
①函館大谷学園法人本部	6
②函館大谷短期大学	7
③函館大谷高等学校	12
④函館大谷短期大学附属認定こども園	13
⑤函館大谷短期大学附属松前認定こども園	15
⑥函館大谷短期大学附属大野幼稚園	17
⑦函館大谷短期大学附属港認定こども園	19
(2) 中期計画の進捗・達成状況	21
(3) その他	21

## 3. 財務の概要

---

(1) 決算の概要	
①貸借対照表関係	
ア) 貸借対照表の状況と経年比較	22
イ) 財務比率の経年比較	22
②資金収支計算書関係	
ア) 資金収支計算書の状況と経年比較	23
イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較	24
ウ) 財務比率の経年比較	24
③事業活動収支計算書関係	
ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較	25
イ) 財務比率の経年比較	26
(2) その他	
①有価証券の状況	26
②借入金の状況	26
③学校債の状況	26
④寄付金の状況	26
⑤補助金の状況	27
⑥収益事業の状況	27
⑦関連当事者等との取引の状況	27
⑧学校法人間財務取引	27
(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	27

# 1. 法人の概要

## (1) 基本情報

- ①法人の名称 学校法人 函館大谷学園
- ②主たる事務所の住所等 〒041-0852 北海道函館市鍛冶一丁目2番3号  
 TEL 0138-51-5614  
 FAX 0138-52-6494  
 URL <http://www.hakodate-otani.jp/>  
 E-mail honbu@hakodate-otani.ac.jp

### ③目的

本法人は、教育基本法、学校教育法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、且つ宗祖親鸞聖人が開顕された本願念仏の大道による仏法と人を重んずる宗教教育を基調とした教育・保育を施すことを目的とする。

## (2) 建学の精神

	短期大学	高等学校	こども園・幼稚園
建学の精神	親鸞聖人の「み教え」を基にした人間教育		
学園訓	報恩感謝 言行一致 親愛礼譲 和衷協同	”生かされている自分”の存在に気が付き自然や社会の恵みに感謝しよう。 自分の行いに責任を持ち、人格形成に努力しよう。 かけがえのない”いのち”をお互いに尊重しよう。 互いに信頼しあい心を同じくして共に力をあわせよう。	
教育理念	かけがえのない「わたし一人」の 発見と自覚  生まれた意義と生きる喜びを見いだそうとする意欲と自信	人間性  自主性  積極性  協調性	仏様に親しみ、いのちの尊さと生きる喜びを感じとる。 (正命の尊重) 身近な自然や、社会のめぐみに感謝し、明るい態度をつくる。(報恩感謝) みんな仲良くし、希望をもって正しい行いに努める。(和合精進)
教育目標	①奉仕できる人 ②豊かな人間関係を築ける人 ③常に向上しようとする人 ④想像力豊かな人 ⑤持続性のある人 ⑥活力あふれた人 ⑦高い職業意識を持った人	新しい文化創造をすると共に人間的・社会的関係については常に相手を拜むことのできる心豊かな人間の育成につとめる。 自己の信念をもって行動の自由と責任を体認させる。  人類幸福のための善には積極的な意欲と情熱を培う。  お互いの人格を尊重し他をゆるしその意見を尊重する協調性を体得させる。	生きる力を養い、思いやりの心をもつことができる、つよく、あかるく、なかよくのびる子。
キャッチフレーズ	人と、ずっと、いきいきと。	「人間大好き」	みんないっしょに、おおきくなろうね。

### (3) 学校法人の沿革

1888 (明治21)年	六和女学校を六和講寺院に創設
1901 (明治34)年	経営を東本願寺が引継ぐ
1902 (明治35)年	函館大谷女学校と改称
1923 (大正12)年	函館大谷高等女学校と改称
1948 (昭和23)年	学制改革により、函館大谷高等学校、同中学校となる
1951 (昭和26)年	学校法人函館大谷学園と組織変更
1963 (昭和38)年	函館大谷女子短期大学開学
1965 (昭和40)年	函館大谷女子短期大学附属幼稚園開園
1966 (昭和41)年	函館大谷女子短期大学付設幼稚園教諭養成所開設
1967 (昭和42)年	函館大谷高等学校男子部創設
1968 (昭和43)年	函館大谷中学校廃校
1969 (昭和44)年	函館大谷学園大野幼稚園開園
1972 (昭和47)年	函館大谷女子短期大学付設幼稚園教諭・保母養成所と名称変更
1981 (昭和56)年	函館大谷女子短期大学幼児教育科第1部・第2部設置
1982 (昭和57)年	函館大谷女子短期大学付設幼稚園教諭保母養成所廃止
1987 (昭和62)年	函館大谷女子短期大学家政科を生活科学科へ名称変更
1989 (平成元)年	函館大谷女子短期大学幼児教育科専攻科(福祉専攻)開設
1992 (平成4)年	函館大谷女子短期大学幼児教育科第2部廃止
2002 (平成14)年	函館大谷女子短期大学を函館大谷短期大学に名称変更(男女共学のため) 上記に伴い附属幼稚園及び大野幼稚園の名称変更
2004 (平成16)年	函館大谷短期大学コミュニティ総合学科開設(生活科学科募集停止)
2005 (平成17)年	函館大谷短期大学生活科学科廃止
2006 (平成18)年	函館大谷短期大学幼児教育科をこども学科へ名称変更
2006 (平成18)年	函館大谷短期大学附属保育園開園
2010 (平成22)年	函館大谷短期大学附属松前保育園開園
2012 (平成24)年	函館大谷短期大学附属松前幼稚園設置開園
2012 (平成24)年	松前認定こども園認定(幼保連携型)
2013 (平成25)年	函館大谷短期大学附属港保育園開園
2014 (平成26)年	函館大谷認定こども園認定(幼保連携型)
2015 (平成27)年	函館大谷短期大学附属認定こども園開園(幼保連携型) (上記に伴い函館大谷短期大学附属幼稚園、同保育園の廃止) 函館大谷短期大学附属松前認定こども園開園(幼保連携型) (上記に伴い函館大谷短期大学附属松前幼稚園、同保育園の廃止)
2017 (平成29)年	函館大谷短期大学附属港保育園の保育所型認定こども園への移行に伴い 同港認定こども園へ名称変更
2020 (令和2)年	函館大谷短期大学こども学科専攻科(福祉専攻)廃止

#### (4)設置する学校・学科等

学 校 名	開校年月	学 科 等	備 考
函館大谷短期大学	昭和38年4月	コミュニティ総合学科	
		こども学科	
函館大谷高等学校	昭和23年4月	全日制課程普通科	
函館大谷短期大学附属認定こども園	昭和40年4月		幼保連携型
函館大谷短期大学附属松前認定こども園	平成22年4月		幼保連携型
函館大谷短期大学附属大野幼稚園	昭和44年4月		
函館大谷短期大学附属港認定こども園	平成25年4月		保育所型 付随事業

#### (5)学校・学科等の学生生徒等数の状況

(令和3年5月1日現在 単位 人)

学 校 名	学 科 等	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
函館大谷短期大学	コミュニティ総合学科	40	29	80	66
	こども学科	70	48	140	88
	計	110	77	220	154
函館大谷高等学校	全日制課程普通科	130	106	390	346
函館大谷短期大学附属認定こども園	幼保連携型	-	-	210	190
函館大谷短期大学附属松前認定こども園	幼保連携型	-	-	95	63
函館大谷短期大学附属大野幼稚園		-	-	160	122
函館大谷短期大学附属港認定こども園	保育所型	-	-	60	61
合 計				1,135	936

#### (6)収容定員充足率

(毎年度5月1日現在 単位 %)

学 校 名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
函館大谷短期大学	79.2	81.6	74.7	70.5	70.0
函館大谷高等学校	73.3	82.3	93.3	94.4	88.7
函館大谷短期大学附属認定こども園	85.8	84.6	80.8	76.5	90.5
函館大谷短期大学附属松前認定こども園	86.3	75.8	73.7	73.7	66.3
函館大谷短期大学附属大野幼稚園	87.5	82.5	70.0	83.1	76.3
函館大谷短期大学附属港認定こども園	101.7	101.7	105.0	105.0	101.7

## (7) 役員 の 概 要

理事現員数9人（定員数9人以上11人以内） 監事現員数2人（定員数2人）

（令和4年3月31日現在）

区 分	氏 名	就 任 年 月 日	常勤・非 常勤の別	業務執行・非 業務執行の別	主 な 現 職 等
理事長	門間 佳一	平成14年6月1日	非常勤	業 務 執 行	真宗大谷派円通寺住職
		理事就任			
		平成26年6月1日			
		理事長就任			
理 事	福島 憲成	平成15年4月1日	常 勤	業 務 執 行	函館大谷短期大学学長
理 事	丸山 政秀	平成20年4月1日	常 勤	業 務 執 行	函館大谷高等学校校長
理 事	三浦 祐雄	令和2年5月29日	非常勤	非 業 務 執 行	真宗大谷派祐専寺住職
理 事	村上 幸輝	平成21年5月27日	非常勤	非 業 務 執 行	会社役員
理 事	仁礼 法秀	平成26年6月1日	非常勤	非 業 務 執 行	真宗大谷派善照寺住職
理 事	照山 昌征	平成28年3月28日	非常勤	非 業 務 執 行	真宗大谷派函館別院輪番
理 事	藤野 明信	平成20年4月1日	常 勤	業 務 執 行	専務理事・函館大谷短期大学副学長
理 事	樋口 也寸志	令和3年4月1日	常 勤	業 務 執 行	常務理事・函館大谷学園本部事務局長
監 事	経森 等	平成20年5月27日	非常勤	非 業 務 執 行	真宗大谷派法龍寺住職
監 事	佐々木 公和	平成20年5月27日	非常勤	非 業 務 執 行	新聞販売所経営

- ・ 当学園寄付行為第19条により「責任の免除」、同47条で「責任限定契約」を規定し、非業務執行役員とは責任限定契約を締結している。

## (8) 評 議 員 の 概 要

評議員現員数23人（定員数21人以上25人以内）

（令和4年3月31日現在）

氏 名	就 任 年 月 日	主 な 現 職 等
藤野 明信	昭和62年12月11日	専務理事・函館大谷短期大学副学長
樋口 也寸志	平成9年6月1日	常務理事・函館大谷学園本部事務局長
飯田 泰子	平成9年6月1日	函館大谷短期大学附属大野幼稚園園長
葛西 真理子	平成18年4月1日	函館大谷短期大学附属認定こども園園長
石山 真由美	平成22年2月5日	函館大谷短期大学附属港認定こども園園長
木戸口 靖之	平成29年4月1日	函館大谷高等学校教頭
浜野 幸子	平成22年5月29日	函館市議会議員
小田島 隆	平成22年5月29日	会社役員
寺西 美由紀	平成22年5月29日	無職
照山 昌征	平成28年3月28日	理事・真宗大谷派函館別院輪番
仁禮 秀嗣	平成28年5月27日	真宗大谷派円照寺住職
三浦 祐雄	平成29年6月1日	真宗大谷派祐専寺住職
高柳 謙	令和3年5月28日	団体役員
加藤 淳	平成16年3月24日	会社役員
伊藤 純子	平成18年5月22日	無職
張江 征司	平成11年4月1日	会社役員
門間 佳一	平成14年6月1日	理事長・真宗大谷派円通寺住職
村上 幸輝	平成18年5月30日	理事・会社役員
間瀬 淳雄	平成20年3月25日	真宗大谷派宝皇寺住職
仁礼 法秀	平成26年5月29日	理事・真宗大谷派善照寺住職
田中 彰祐	平成29年6月1日	真宗大谷派願船寺住職
村上 幸義	平成30年3月29日	会社役員
鈴木 公英	令和2年3月30日	真宗大谷派景雲寺住職

## (9)教職員の概要

(令和3年5月1日現在 単位 人)

学 校 名	教 員			職 員			本務者平均年齢(歳)		
	本務	兼務	計	本務	兼務	計	教員	職員	本務者計
函館大谷短期大学	16	33	49	5	0	5	55.7	45.4	53.2
函館大谷高等学校	24	18	42	5	0	5	41.8	47.6	42.8
函館大谷短期大学附属認定こども園	21	13	34	1	0	1	30.9	58.0	32.1
函館大谷短期大学附属松前認定こども園	10	3	13	1	3	4	30.1	33.0	30.4
函館大谷短期大学附属大野幼稚園	9	6	15	1	0	1	30.8	57.0	33.4
函館大谷短期大学附属港認定こども園(保育所型)	0	0	0	13	6	19	-	35.3	35.3
法人本部	0	0	0	1	0	1	-	61.0	61.0
合 計	80	73	153	27	9	36	39.0	42.0	39.8

## (10)その他

特に記載すべき事項はありません。

## 2. 事業の概要

### (1) 主な事業の達成状況

#### ① 法人本部

経営目標 学園を取り巻く社会環境が激変する中で、社会から信頼される学園運営を目指し、経営・教育の両輪の改革向上を図ります。効果的、効率的な予算編成・執行を行い、基本金組入前当年度収支差額を均衡させ安定的な財政基盤を確立させます。またガバナンスの改善・強化を図り学園運営を適正に執行できる体制を作ります。

項目	行動計画(5カ年)	事業計画(令和3年度)	達成状況
管	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役員の責任と権限の明確化と、監事機能や評議員会機能の充実と、自律的なガバナンスの改善と強化</li> <li>・ 内部監査制度の実施</li> <li>・ 第二次中期計画の策定</li> <li>・ 法令順守を全教職員への浸透徹底</li> <li>・ 人権、人格に配慮したハラスメント等のない職場環境の確立</li> <li>・ 働き方や時間管理の見直しによる職場環境の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諸規程見直しの検討(継続)</li> <li>・ 内部監査体制について検討(継続)</li> <li>・ 第二次中期計画に必要な情報の収集(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校法人制度改革特別委員会等の各種資料を収集し検討を重ねた</li> <li>・ 本年度は実施できず次年度以降に継続し</li> <li>・ 他法人の中期計画を参考に検討を重ねた</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人事採用計画に基づく適切な採用選考と適正人員の確保</li> <li>・ 定年延長についての検討</li> <li>・ 防犯、防災及び減災体制の確立と備蓄等を含めたインフラ整備の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勤怠管理システムの運用</li> <li>・ グループウェアの活用による簡素化、効率化による業務の見直し</li> <li>・ 定年延長後の給与体系の検討(継続)</li> <li>・ 定年後の再雇用制度の見直しの検討(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こども園等の4園と同じく運用を開始した</li> <li>・ グループウェアの運用を開始した</li> <li>・ 各種資料を収集し検討を重ねた</li> <li>・ 同上</li> </ul>
運	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報システムに関する危機管理体制の整備と事故対応の強化</li> <li>・ 学園存続の条件である基本金組入前当年度収支差額の均衡を維持するため、人件費を含めた総経費の適正化による財政基盤の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラウド環境の実現</li> <li>・ 給与体系の見直しの検討(継続)</li> <li>・ 学費改定の検討(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校会計ソフト及び給与計算ソフトのクラウド環境を実現し運用を開始した</li> <li>・ 各種資料を収集し検討を重ねた</li> <li>・ 高校部門の授業料の改定(令和4年度から)を行った</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部資金及び補助金の効果的な獲得をするための組織体制の強化</li> <li>・ 環境変化に対応した教育、保育環境の充実</li> <li>・ 将来構想とそれに基づく施設整備計画の立案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種研修会、説明会に担当職員の出席(継続)</li> <li>・ オンライン研修会へ対応した環境整備</li> <li>・ テレワークに対応した環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍により各種オンライン研修会に参加した</li> <li>・ Wi-Fi環境を改善し、ノートパソコンを数台購入し環境整備を行った</li> <li>・ 環境整備を行い令和4年度から段階的にテレワークを実施する</li> </ul>



部門 函館大谷短期大学

教育目標 奉仕できる人 豊かな人間関係を築ける人 常に向上しようとする人  
 想像力豊かな人 持続性のある人 活力ある人 高い職業意識を持つ人

項目	行動計画(5カ年)	事業計画(令和3年度)	達成状況
教	・3つのポリシーの見直し	・D P, C P, A Pの点検(継続)	・両学科ともに点検を行い、方針を精査した。
	・公開講座の取り組み	・中学、高校への出前講座の実施(継続) ・一般市民対象の公開講座の開設(継続)	・コロナの影響で延期や中止があったが、数件の出前講座を実施できた。 ・古典講座(源氏物語)のみ継続するも、コロナの影響により、ほとんどが開催されないまま終わった。
育	・高大連携の取り組み	・遺愛高等学校の介護初任者研修資格取得講座開設(継続) ・南茅部高等学校との連携授業の実施(継続)	・様々な工夫をして、講座を開講し、受講者全員が資格を取得することができた。 ・専任教員をスクールカウンセラーとして派遣した。
	・地域との連携の取り組み	・松前町との包括連携協定に基づく小・中・高校へのスクールカウンセラーの派遣 ・函館市との包括連携協定に基づく日韓親善交流事業の実施(継続) ・函館山ロープウェイ株式会社との連携協定に基づく事業の実施(継続)	・松前教育委員会からの依頼によりスクールカウンセラーの派遣を行った。 ・コロナ禍でこの2年間実施できずにいる。積極的に実施していた教員が辞めたので、今後どうなるか不明である。 ・事業は実施しなかった。
保	・国際教育の取り組み	・韓国高陽市研修団の受け入れ及び研修団の派遣(継続) ・韓国高陽市保育共同組合との連携協定の取り組み(継続) ・韓国高陽市中部大学との連携協定の取り組み(継続)	・コロナの影響で事業は実施できなかった。 ・連携協定は継続だが、コロナの影響で事業は中止となった。 ・連携協定は継続だが、コロナの影響で事業は中止となった。
	・豊かな人間性を身につけた知識人の育成	・コミュニケーションスキル向上の専門科目の開講(継続) ・地域活動への参加(継続) ・大学行事への積極的な参加(継続)	・コミュニケーションなどの専門科目の活用と共に、ディスカッションやディベートの訓練を通じて、コミュニケーションスキルの向上を図った。 ・学友会を中心に地域活動への参加を目指しているが、具体的な取り組みとはいかなかった。 ・オープンキャンパスやFMいるか「キャンパスデイズ」、学友会に参加し、企画力や学生生活の充実さ、大学への関心の向上、豊富な経験および視野の拡大を図った。
育	・地域社会のニーズに応じた専門的知識、技術を身につけた社会人の育成	・地域創生フォーラムの実施(継続) ・少人数の専門ゼミ制度(継続) ・資格取得講座充実(継続)	・コロナの影響で今年度も実施できなかった。 ・経営マーケティング、情報、コミュニケーション心理のゼミ形式で専門的な知識と技術を身につけた。 ・資格取得の希望者に対策講座を行うと共に検定料の半額を補助するなど、資格取得の促進を図った。
	・働くことの意義を見出し、社会性を身につけた職業人の育成	・入学前教育の実施(継続) ・キャリアデザインの充実(継続)	・入学前に課題を配布し学習させ、基礎学力の確認・補習および大学教育の基礎的能力の習得を図った。 ・働くことの意義や協働の意味は何かを学習させ、社会人としての基本マナーやスキル身につけ、礼儀や常識のある職業人の育成を行った。

項目	行動計画（5カ年）	事業計画（令和3年度）	達成状況
教 育 ・ 保 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度学科名、カリキュラムを変更</li> <li>・総合芸術教育活動の推進</li> <li>・情報教育の充実</li> <li>・附属認定こども園との交流</li> <li>・サークル活動の地域貢献支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターシッパの充実（継続）</li> <li>・地域活性化プロジェクトの実施（継続）</li> <li>・学科名、カリキュラム変更を検討（継続）</li> <li>・卒業研究発表会を目的とした総合芸術教育活動の展開（継続）令和4年度の内容の検討</li> <li>・ICTを取り入れた情報教育の充実（継続）</li> <li>・附属認定こども園との相互研究、教育活動の取り組み（継続）</li> <li>・光る影絵サークルの地域貢献活動の継続（継続）</li> <li>・函館大谷オリジナルの光る影絵を中心としたプログラムを持って市内各種施設（幼稚園・保育園・こども園・老人ホーム）児童館、図書館、仏教会、保護司団体、ソロプチミスト、ユネスコ、ロータリーなどの大会や地域イベントなどの公演を行う（継続）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の希望や適性にあったインターシッパ先の手配を試みたが、コロナの影響で調整が難しく、引き続き充実を図る。</li> <li>・地域の現状把握、実態調査・分析・企画・提供を行い、その結果、地域社会への関心向上や行政等からの高評価、地域社会への貢献と地域創生に繋がる教育を充実させた。</li> <li>・継続して検討する。</li> <li>・昨年まではコロナの影響で無観客であったが、今年度はこども学科1年生を入れ、こども学科2年生は函館市芸術ホールでダンスの卒業発表会を開催した。</li> <li>・コミュニティ総合学科2年の授業で遠隔授業を実施した。</li> <li>・こども学科は、情報機器を活用しレポート、小論文、園だよりなどを作成する授業を実施した。</li> <li>・双方にコロナ感染者が出て直前に中止せざるを得なかった。卒業研究発表の大事な活動うだったのに残念だった。</li> <li>・コロナの影響で、思うような活動ができなかった。</li> <li>・歌や台詞を録音する等の工夫を凝らした感染対策を講じて、数回の公演を行うことができた。</li> </ul>
支 援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援</li> <li>・課外活動支援</li> <li>・キャリア教育</li> <li>・進路、就職支援</li> <li>・学生納付金免除制度導入</li> <li>・特別奨学金の導入</li> <li>・学業優秀学生奨学金の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健管理、事件事故防止、相談等の学生生活に係わる支援の実施（継続）</li> <li>・学生の自主的な課外活動及び社会活動に参加できるための支援の実施（継続）</li> <li>・正課内外のキャリア教育を通して社会で必要な基礎的、汎用的能力を育成するための支援の実施（継続）</li> <li>・ゼミ担当、実習担当と学生支援部が連携して主体的な進路選択及び就職決定ができるよう学生個々の状況を踏まえたきめ細かな支援の実施（継続）</li> <li>・本学が定める学業成績基準等を満たした者に対して入学金及び授業料の減免制度の実施（継続）</li> <li>・経済的理由により修学が困難な者に対して学費を給付して学業を継続させる奨学金制度の実施（継続）</li> <li>・1年修了時に学業成績が優秀かつ他学生の模範となる者に学費を給付する奨学金制度の実施（継続）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で学生の心の拠り所となるような相談体制を整備した。</li> <li>・こころの相談と保健相談件数は少数であった。引き続き支援・相談体制を確立する。</li> <li>・コロナの影響で活動自粛を余儀なくされ、活動再開後も、対外的な活動の制限が多く積極的な活動には至らなかった。</li> <li>・道南企業が集結した学内合同企業説明会を開催し、現場の生きた話を聞くことができた。</li> <li>・ゼミ担当や実習担当、アドバイザー、学生支援部が連携し、学生の特性を見極めたサポートを実施した。</li> <li>・学業成績基準等を満たした者に入学金や授業料の減免を行い、経済的負担の軽減を図った。</li> <li>・経済的理由により修学が困難で、本学が定める学力基準以上のものに対して、授業料の半額を給付し経済的負担の軽減を図った。</li> <li>・1年次の学業成績が優秀な学生に対して奨学金を給付した。</li> </ul>

項目	行動計画（5カ年）	事業計画（令和3年度）	達成状況
支 援	・自宅外通学助成給付金の導入	・自宅外から通学する学生に助成金を給付し学生生活を支援する給付金制度の実施（継続）	・自宅外通学助成給付金を給付し、学生生活を支援した。
募 集	・アドミッションポリシーを明確化 ・運営委員会の立ち上げ  ・生徒、保護者及び高等学校教員に対して本学の教育内容、教育実践についての周知を更に徹底  ・オープンキャンパスを通じた本学の魅力の継続的な発信  ・函館大谷高等学校との高大連携を見直し推進  ・函館大谷高等学校以外の高校とも連携をさらに推進	・アドミッションポリシーの再点検（継続） ・目標を定めて抜本的に見直す  ・ホームページの充実（継続）  ・両学科独自のプログラムによるオープンキャンパスの実施（継続）  ・独自の説明会の実施（継続）  ・高校訪問の充実（継続）	・継続して検討する。  ・入学生が激減し、短大財政がここ数年間赤字である。この赤字をどう改善するかをテーマに、副学長を中心に運営委員会で検討した。次年度以降も継続して赤字解消に努める。  ・教育内容や教育実践活動について、ホームページや新聞の取材を通じて情報発信を行った。  ・オープンキャンパス等を通じた本学の魅力の継続的な発信を行った。また、Lineや動画、ホームページの充実を図り、本学にアクセスしやすい環境を整備した。  ・独自の説明会を実施した。高大の連携を図るため、運営委員会の下に高大の連携委員会を立ち上げ、内部高大の連携をしっかりと強めていく。  ・従来の高校訪問を行って、信頼関係を築いた。
管 理 ・ 運 営	・教育研究用機器備品を整備  ・校舎の補修工事を実施  ・自己点検評価活動の推進  ・教職員の資質向上  ・危機管理体制の点検と取り組み  ・人事計画の作成	・図書館設備の整備（継続） ・教育研究設備の計画立案（継続） ・屋上防水補修工事の計画立案（継続）  ・自己点検及び評価報告書の作成（継続）  ・自己点検評価に関わる必要事項の検討、実施及び公表（継続）  ・FD、SD等各種研修会の参加促進と資質向上を図る（継続） ・防災管理マニュアルの点検及び修正（継続） ・教職員及び学生に周知し危機管理体制の強化を図る（継続） ・教員組織及び事務局組織の適正な人員配置を行う（継続）	・図書自動貸出返却装置の入替えを行った。 ・計画を整備した。次年度も整備する。 ・屋上の防水補修工事を実施した。また、中庭側の教室窓の改修工事も行った。 ・自己点検及び評価報告書を作成しホームページに公表した。次年度も継続する。 ・自己点検評価に関わる必要事項の検討は、委員会において実施した。次年度も継続して検討する。 ・遠隔授業のFD・SD研修会を開催し、教職員の資質向上を図った。 ・継続 本年はコロナ感染症対策本部を立ち上げコロナ感染防止に努めた。 ・防災管理マニュアルの内容を精査した。 ・継続して検討する。

認証評価機関の評価結果 一般財団法人短期大学基準協会

函館大谷短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成29年3月10日付で適格と認める。

## ◎コミュニティ総合学科

### 卒業認定・学位授与の方針

学則に基づき、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して短期大学士の称号を授与します。

1. ビジネスの専門知識や技能を修得すると同時に、ビジネスの現場で対応できる「人間性」を獲得する。
2. 一般教養・専門知識を身につけ、専門性・コミュニケーション能力によって、自主的・積極的に社会における経済活動ができる。
3. 地域社会に貢献する奉仕の精神を持ち、総合的な人間力、職業人としての資格の向上を継続的に図ることができる。

以上のように、知識・技能だけではなく、人として、社会人として自らを向上させる姿勢を求めます。

### 教育課程編成・実施の方針

短期大学士として必要な教養を高めつつ、職業人としての専門性を身につけさせると共に、キャリアデザインに応じた知識および資格取得を目的とし、地域に根ざし地域と連携した教育内容を実施するため、以下の視点を重視しています。

1. 人間理解およびビジネス専門知識や技術を修得することが可能な教育課程の編成
2. ビジネス現場の見学および体験を通じ、学習した理論を明確に理解すると共に、実践につなげられるカリキュラム編成
3. 社会ニーズの高い資格を、単位修得と同時に取得できる教育課程の編成と共に受験による資格取得への充実した資格対策カリキュラムの編成
4. 学生ニーズに対応した、「経営・マーケティング」「情報」「コミュニケーション心理」という3つのカテゴリーによる教育課程の編成
5. 専門ゼミの研究活動による専門性・研究能力修得の重視

これらの視点を基に、シラバスにおいて各科目の授業のねらい、到達目標、授業の方法、授業計画、成績評価の方法、成績評価の基準、事前事後の学習内容および教科書・参考文献などを明示しています。

### 入学者受入れの方針

1. 様々な経済活動、特に地域の経済社会に関心があり、その地域社会のニーズに的確に対応できるビジネス知識と技能を学ぶことを強く望んでいること。また将来、経済活動を通じて地域社会に貢献しようとする意欲を持っていること。[学習する態度]
2. 高等学校での学習内容を理解し、本学科での勉学に必要な基礎知識（特に漢字および文章表現の国語能力）を有していること。また、今までの経験で培った特技を今後の学びに活かせること。[知識・技能]
3. 物事を多面的に捉え、自ら考え、自ら行動するという主体性を持ち、自分を成長させ、将来の道を開こうとすると共に、自分の意思を他人にしっかり伝えることができること。[思考力・コミュニケーション力]

本学科の教育目的・教育目標、および以上の3要素に基づき、次の4点を求めます。

1. 他者への優しさがあり、協働できる人
2. 自分の適正を把握し、夢を見つけ、将来の道を開こうとする人
3. ビジネスの専門知識や技能、多くの資格取得を目指す人
4. 地域社会の発展や貢献に意欲を持ち、主体的に行動する意欲のある人

これらの基準を、「志望動機」「態度」「人間性」「協調性」「主体性」「学習意欲」「基礎資質」「理解力」「コミュニケーション力」「健康状態」「表現力（小論文・自由課題発表）」の11項目により評価します。

## ◎こども学科

### 卒業認定・学位授与の方針

学則に基づき、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して短期大学士の称号を授与します。

1. 保育の内容や方法を習得すると同時に、様々な子どもに対応できる人間性を獲得する。
2. 子どもの実態を理解し、豊かな表現力・コミュニケーションによって、主体的・積極的に子どもの活動を支援できる。
3. 地域からの要望や地域の活動に貢献する奉仕の精神を持ち、総合的な人間力や保育者としての資質の向上を継続的に図ることができる。

以上のように、知識・技能だけではなく、人として、社会人として自らを向上させる姿勢を求めます。

### 教育課程編成・実施の方針

幼稚園教諭、保育士および保育教諭に向けた養成課程であるため、教員免許法および指定保育士養成施設保育士養成課程に定められたカリキュラム編成とすることを原則としたうえで、以下の視点を重視しています。

1. 人間理解および職業人としての専門性を習得することが可能な教育課程の編成
2. カリキュラムマップによる卒業要件と免許・資格取得へのプロセスの明確化
3. 幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の同時取得を前提とした教育課程の編成
4. 体験的・実践的学習展開を重視した1年次からの実習カリキュラムの編成
5. 学生ニーズに対応した「幼児教育」「保育福祉」「保育心理」の3コースによる教育課程の編成
6. 様々な体験活動による表現力・実践力習得の重視

これらの視点を基に、シラバスにおいて各科目の授業のねらい、到達目標、授業の方法、授業計画、成績評価の方法、成績評価の基準、事前事後の学習内容、および教科書・参考文献などを明示しています。

### 入学者受入れの方針

1. 幼児教育や保育に対する興味や関心があり、その職業に就くための国家資格取得を強く望んでいること。また、将来、保育・教育・福祉の分野において地域・社会に貢献しようとする意欲を持っていること[学習する態度]
2. 高等学校での学習内容を理解し、本学科での勉学に必要な基礎知識（特に漢字および文章表現等の国語能力）を有していること。また、高等学校での授業やクラブ、ボランティア活動等で培った技能を、今後の学びに活かせること[知識・技能]
3. 音楽・美術・体育のいずれかが得意で、その能力を表現する（発揮する）方法を見つけ出し、それらに楽しみを感じることができること。また、自分の考えを持ちながらも多様な人々と協働し、主体的に行動していく態度を身につけていること。[思考力・表現力]

本学科の教育目的・教育目標、および以上の3要素に基づき、次の4点を求めます。

1. 人としてのあたたかさや他者への優しさがある人
2. 明るく元気で、生き活きと心豊かに表現できる人
3. 目的に向かって前向きに努力する人
4. 他者の意図を理解し、適切なコミュニケーションがとれる人

これらの基準を、「志望動機」「態度」「人間性」「協調性」「主体性」「学習意欲」「基礎資質」「理解力」「表現力」「健康状態」「文章表現力（小論文）」の11項目により評価します。

### ③函館大谷高等学校

教育目標	人間性	新しい文化創造をすると共に人間的・社会的関係については常に相手を拝むことのできる心豊かな人間の育成につとめる。
	自主性	自己の信念をもって行動の自由と責任を体認させる。
	積極性	人類幸福のための善には積極的な意欲と情熱を培う。
	協調性	お互いの人格を尊重し他をゆるしその意見を尊重する協調性を体得させる。

項目	行動計画(5カ年)	事業計画(令和3年度)	達成状況
教 育 ・ 保 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他を認め、常に相手を拝むことができる心を持つことを生徒、教職員共通の目標とし、「選ばず、嫌わず、見捨てず」を依り所として、とことん寄り添う教育を行う</li> <li>・建学の精神、教育理念と教育目標、学校目標を意識する中で日々の教育活動を行い、豊かな心、生きる力を育む真宗人間教育を推進する</li> <li>・少人数制の選択授業による、感性を育む芸術選択科目と多様なニーズに対応するオープン選択科目、より専門的な実技の習得を目指す専攻実技科目など、コース制のさらなる充実、発展を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者に誠実に向き合い、互いに認め合うことができる高い信頼関係の構築を目指す(継続)</li> <li>・かけがいのない「わたし一人」の発見と自覚を促し、その「いのち」を尊重し合う自己の実現を促す宗教行事等を実施する(継続)</li> <li>・新学習指導要領に対応しつつ、より特色あるカリキュラムを編成する(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね信頼関係を築けている</li> <li>・花まつり、報恩講はオンラインで開催するなど、コロナ禍での実施を模索した。また、継続して宗教の授業やHRを通じ、学校として「いのち」を見つめる教育をおこなった</li> <li>・令和4年度より実施のカリキュラムを編成し、実施への体制を整備した。</li> </ul>
支   援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な背景をもって入学してくる生徒一人ひとりを尊重しながら学校と保護者が一体となった生徒支援を実現し、生徒の認識を変容させるとともに、「全ての生徒の学力を向上させる」ことを最優先課題とする</li> <li>・生徒の進路意識を涵養するイベント等への積極的な参加や就業体験、個人の希望を叶える柔軟な進路指導講習の開講等の取り組みを推進する</li> <li>・生徒会、部活動等の課外活動への適切なサポートを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前テキストや学びの基礎診断の活用による基礎学力レベルの把握と補修、講習等による対策(継続)</li> <li>・Q Uテストの実施と分析による学級及び学校生活満足度の把握と対策(継続)</li> <li>・新入生の入学前父母面談をはじめとする定期的な保護者面談の実施(継続)</li> <li>・地域レベルの進路フェア等への参加や本校の開催によるガイダンス(一斉相談会)の実現(継続)</li> <li>・多様な職種へのインターンシップ参加(継続)</li> <li>・希望学校、職種に応じた柔軟な補習、講習の実施(継続)</li> <li>・外部施設を活用した活動への支援(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの基礎診断をより効果的に活用すべく、診断後の学習素材についての検討をおこない、令和4年度からの採用を決定した。</li> <li>・年2回実施し、HR運営などに活かした</li> <li>・実施し、活用した</li> <li>・新型コロナウイルス感染症により大型の集会等が開催されず、本校独自の施策も実施することが困難であった</li> <li>・マイナビのサービスによって新しい形での就業体験をおこなった</li> <li>・放課後および長期休業中の講習を実施した</li> <li>・サッカー、卓球、野球および陸上等の部活動で外部施設を活用し、施設の不足を補った</li> </ul>
募  集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践内容の地域、生徒および保護者への周知を促進する</li> <li>・年間を通じた積極的な生徒募集活動を実践する</li> <li>・適切な経済的支援を施策する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通授業見学の継続実施(継続)</li> <li>・ICT機器を利用したオンライン相談の実施やWEBサイト等による広報活動の充実</li> <li>・就学支援金等の公的支援の適切な活用に加え、所得に因る入学金の減免をはじめとする独自の支援の実施(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響があり、見学者は減少した</li> <li>・WEBサイトへの記事掲載の仕組みを刷新し、タイムリーな更新を図った</li> <li>・令和4年度校納金の改訂および入学金減免の拡充、PTAとの連携による指定機器購入負担の軽減などを検討し、決定した。</li> </ul>
管 理 ・ 運 営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の生徒数増に対応し、かつ将来の少子化傾向にも対応しうる体制を整備する</li> <li>・併設する函館大谷短期大学との連携を深め、5カ年一貫カリキュラムを推進する</li> <li>・自己、関係者及び第三者による評価を実施し、学校運営へ反映する</li> <li>・安心して通い学べる学校の実現を施設設備面からも推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間雇用及び非常勤講師の活用(継続)</li> <li>・教員の交流及び施設設備の相互利用を推進(継続)</li> <li>・関係者評価を実施するとともに、各評価内容の教職員への周知を徹底し、改善への意識を共有する(継続)</li> <li>・I C T環境の整備と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準教員数を下回る構成を非常勤講師を活用することにより補った</li> <li>・短大への進学を想定し、人材交流や施設の相互利用をおこなった</li> <li>・北海道大谷学園連合会による第三者評価に加え、卒業生保護者とPTA役員による関係者評価をおこなった。</li> <li>・全普通教室から接続可能なWi-Fiネットワークを整備したほか、令和4年度から実施する一人一台体制に備えた整備をおこなった。</li> </ul>

#### ④函館大谷短期大学附属認定こども園

教育目標 生きる力を養い、思いやりの心をもつことができる、つよく、あかるく、なかよくのびる子

項目	行 動 計 画 (5カ年)	事 業 計 画 (令和3年度)	達 成 状 況
教 育 保 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宗教教育の充実</li> <li>・ 満3歳児教育の充実</li> <li>・ 体験学習による教育、保育の充実</li> <li>・ 食育活動への取り組みと充実</li> <li>・ 地域との連携推進</li> <li>・ 短大、高校との連携推進と相互教育の効果と実践</li> <li>・ 姉妹園との交流</li> <li>・ 地域や小学校との連携強化</li> <li>・ 少人数保育による一人ひとりに即した配慮と対応</li> <li>・ 直接体験や本物体験を通して、自然の事象に興味と関心をもつ環境構成の工夫</li> <li>・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、小学校の教師とも共有し、認識を深める</li> <li>・ 外部講師を招聘しての園内研修の充実</li> <li>・ 公開保育の実施や他園との協同研修の実施</li> <li>・ 給食指導と食育活動が一体となった食育計画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学園合同報恩講への参加（継続）</li> <li>・ 花まつり、成道会など仏教行事への参加（継続）</li> <li>・ 満3歳児の発達理解と指導計画の見直し（継続）</li> <li>・ プール体験、英語指導、お茶指導及び書道の実施（継続）</li> <li>・ 運動遊びの実施</li> <li>・ 野菜栽培やクッキングなど直接体験の充実</li> <li>・ 短大の研究発表会の見学や研究授業を通して、短大生との交流を図る（継続）</li> <li>・ 副担、補助教員による一人ひとりに即した対応の充実（継続）</li> <li>・ 園外保育の充実を図り、自然に親しむ機会をもつ（継続）</li> <li>・ 小学校へのスムーズな接続の引継ぎと授業参観による小学校教育の理解（継続）</li> <li>・ 子ども理解や保育の環境構成、特別支援等についての研修を行う（継続）</li> <li>・ 園内研修の充実</li> <li>・ オンライン研修への積極的な参加</li> <li>・ 身近な野菜（きゅうり・トマト・なす等）の栽培と収穫の体験を通して、食育活動を行う（継続）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一堂に会しての学園報恩講は中止</li> <li>・ 函館仏教会主催の成道会は中止となるが、花まつりは園にて行う（稚児・灌仏）</li> <li>・ コロナ禍での体験学習の在り方と指導計画の見直しを行う</li> <li>・ 感染拡大の状況に応じて、感染対策を講じ、計画的に行う</li> <li>・ リズムジャンプ体験学習を取り入れ、運動遊びの充実を図る</li> <li>・ かぼちゃやミニトマト、きゅうりなど各学年、栽培を通して、食育活動の充実を図る</li> <li>・ 研究授業はコロナ禍で中止となったが、年長のみ光る影絵の観覧をする</li> <li>・ 満3、年中少に補助教員を配置し、一人ひとりに応じた援助を行う</li> <li>・ イチゴ狩り、いもほりなど、自然体験の機会を多くもち、自然に親しむ</li> <li>・ 引継ぎシートや電話で小学校への引継ぎを行う</li> <li>・ 北私幼や道南私幼の研修会に積極的に参加する</li> <li>・ 経験年数、テーマごとに園内研修を行う</li> <li>・ キャリアアップ研修を受講する</li> <li>・ 畑の面積を2倍することで、様々な野菜を栽培し、観察日記をとるなど、その生長に興味・関心をもつ</li> </ul>
支 援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期預り保育の内容見直しと充実</li> <li>・ 長時間保育の配慮についての見直し</li> <li>・ 子育て相談、園児の発達相談に取り組む</li> <li>・ 子育て相談や子育て講演会の実施</li> <li>・ 幼児無償化への対応</li> <li>・ 保育体験の実施、子育て相談及び外部専門機関の紹介</li> <li>・ 学童保育の実施に向けての内容検討</li> <li>・ 小学校見学や人的交流により円滑な接続を図る</li> <li>・ 地域との連携における安全管理の確立</li> <li>・ 警察や消防など関係機関との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期預り保育充実に向けての人員配置の検討（継続）</li> <li>・ 長時間保育のカリキュラムの再編成</li> <li>・ 個別対応が必要な園児に対して、関係機関との連携を図り、保護者と共に子どもの育ちを促す（継続）</li> <li>・ 外部講師による、子育て講演会の実施（継続）</li> <li>・ 新2号認定児の利用内容の周知</li> <li>・ キッズサークルや園開放、子育て相談の充実力を入れる（継続）</li> <li>・ 参観日、運動会、発表会見学など人的交流を図り、相互理解を深める（継続）</li> <li>・ 地域の老人施設やお年寄りとの交流を図る（継続）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新2号認定児の増加により、預かり保育の担当職員を増員し、対応する</li> <li>・ カリキュラムの検討をし、再編成を図る</li> <li>・ 個別の対応が必要な園児に対しては、関係機関との連携の密にとり、充実を図る</li> <li>・ コロナ禍のため、実施せず</li> <li>・ 保護者への制度説明を詳細に行い、理解した上での利用を促す</li> <li>・ 感染対策を行い、少人数での活動を行う</li> <li>・ コロナ禍のため、実施せず</li> <li>・ コロナ禍のため、実施せず</li> </ul>

項目	行動計画（5カ年）	事業計画（令和3年度）	達成状況
募 集	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援事業の充実</li> <li>預り保育内容の充実と延長保育の実施</li> <li>見学会の実施と充実</li> <li>広報活動の効果的な実施と改善</li> <li>ホームページ等の活用による、保育活動の外部発信</li> <li>通園バス路線の拡大と充実</li> <li>バス運行管理業務委託の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て講座の開催（継続）</li> <li>預り保育内容の充実と延長保育を実施、また十分な職員配置を行う（継続）</li> <li>見学会における保育参加と丁寧な対応による保育内容の伝達に努める（継続）</li> <li>広報活動に効果的な新聞広告、チラシ等による周知（継続）</li> <li>HPを利用した保育内容の公開と内容改善による、効果的に広報活動（継続）</li> <li>短大《光る影絵サークル》と連携した広報活動を行う（継続）</li> <li>バスコース、バス停の再検討（継続）</li> <li>バス運行管理業務委託</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍のため、実施せず</li> <li>利用者の増加による保育内容の見直しを行う（延長保育はコロナ禍のため自粛）</li> <li>見学会を実施し、保育の内容を伝えていくとともに、個別の見学を行い、丁寧な対応をする</li> <li>グテパーや広告にて広報活動を実施する</li> <li>保育の内容を定期的に発信していく</li> <li>コロナ禍により、園児のみの観覧となる</li> <li>保護者の要望と安全に配慮しながら、バスコースを策定する</li> <li>バス運行管理業務を委託し、安全と管理に努める</li> </ul>
管 理 運 営	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の特性を生かした人員配置</li> <li>仕事に充実感をもてる職場環境の構築</li> <li>事件事故の未然防止の取り組みについて定期的な評価、改善</li> <li>防犯、防災対策の充実を図り、訓練の実施する</li> <li>警察や消防などの関係機関との連携強化</li> <li>安全管理の徹底と定期的な点検</li> <li>園庭及び中庭の整備充実</li> <li>遊具の安全管理と充実</li> <li>計画的な施設老朽化改修工事</li> <li>情報インフラの整備充実</li> <li>自己評価による課題の明確化と研修の充実</li> <li>学校評価を生かしたPDCAサイクルの確立</li> <li>第三者評価の検討及び実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育部、幼稚部のそれぞれの役割の理解を深めると共に、職員一人ひとりの特性が生かされる人員の配置（継続）</li> <li>業務内容の見直しと効率的な仕事の実践</li> <li>勤怠システム導入による職員管理</li> <li>危機管理マニュアルの改善と再計画（継続）</li> <li>安全管理の課題把握と改善</li> <li>安全管理研修（AED・不審者対応研修など）の実施（継続）</li> <li>学園合同の避難訓練の実施（短大・高校・こども園）（継続）</li> <li>ICカードを利用した、登降園システムの活用による通園確認と玄関施錠の徹底（継続）</li> <li>感染症対策の徹底</li> <li>園庭の砂場環境改善（継続）</li> <li>遊具の設置（継続）</li> <li>パソコン増台等による管理業務の改善と保育環境の充実（継続）</li> <li>Wi-Fi環境整備</li> <li>保護者ニーズを捉えた保育の充実による評価と改善（継続）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員それぞれが役割を理解し、保育者間で連携をとり、保育に努める</li> <li>業務内容を内容を見直し、効率的に仕事が進むように努める</li> <li>勤怠システム導入</li> <li>園内研修や会議等で改善事項を確認し、検討する</li> <li>課題を把握し、改善に努める</li> <li>不審者対応訓練を行う</li> <li>次年度に実施を検討</li> <li>不審者対応のため、玄関施錠を徹底する</li> <li>感染対策を徹底し、感染拡大防止に努め</li> <li>砂場の安全管理と定期点検を行う</li> <li>定期点検を行い、安全を確保する</li> <li>パソコン5台を増やし、管理業務の改善を図る</li> <li>ひかり回線、遊戯室Wi-Fiの整備</li> <li>自己評価による課題を捉え、保育の質の向上に努めるための研修に参加する</li> </ul>



### ⑤函館大谷短期大学附属松前認定こども園

教育目標 生きる力を養い、思いやりの心をもつことができる、つよく、あかるく、なかよくのびる子

項目	行動計画(5カ年)	事業計画(令和3年度)	達成状況
教 育 ・ 保 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教教育の充実</li> <li>・体験活動による教育、保育の充実</li> <li>・食育活動による取り組みと充実</li> <li>・地域との連携推進</li> <li>・姉妹園との交流</li> <li>・地域に根ざした教育、保育の展開</li> <li>・自然体験を取り入れた保育の充実</li> <li>・英語、書道教育の計画と充実</li> <li>・人との関りから協同性を学べるよう活動を計画的に進める</li> <li>・園内、園外研修の充実を図る</li> <li>・研修会、研究会等への積極的な参加</li> <li>・給食指導と連携した食育計画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松前町仏教会主催の花まつり参加【年中・年長組】(継続)</li> <li>・松前町専念寺の報恩講に参列【年長組】(継続)</li> <li>・松前町内のイベント等に参加【年長組】(継続)</li> <li>・じゃがいも、さつまいもの蒔き付けと収穫、りんご狩りや栗拾い等の自然体験(継続)</li> <li>・松前町内のALTによる英語教育【年中・年長組】(継続)</li> <li>・外部講師による書道教育【年長組】(継続)</li> <li>・新任研修等、各種研修会のオンライン研修を含め、研修参加に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、中止</li> <li>・感染症対策をしながら、予定通り、参列することができた</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、全て中止</li> <li>・年長組を中心に自然体験を味わうことができた</li> <li>・英語教育は、7月でALTが任期を終えて帰国し、その後、次のALTが派遣されず、回数が数回しか行われなかった</li> <li>・書道教育は、予定通り行われた</li> <li>・映像による研修には参加できたが、オンラインの研修には参加することが出来なかった</li> </ul>
支 援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりの多様性に配慮し、子育て相談及び園児の発達相談に取り組む</li> <li>・幼児教育無償化への対応</li> <li>・園行事への積極的な参加を促し、園児の個別懇談などの充実</li> <li>・保育体験の実施、子育て相談及び外部専門機関の紹介</li> <li>・小学校との円滑な接続を目指し、積極的な人的交流を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児親子対象の子育て支援や保健師との定期的な面談を行い、情報交換を行う(継続)</li> <li>・小学校への円滑な接続ができるよう、小学校の行事(運動会・発表会)の見学(継続)</li> <li>・松前町主催の連携会議等に参加し、交流を深める(継続)</li> <li>・中学校、高等学校のインターシップ受入れ(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあったが、子育て支援事業もできる範囲で行い、保健師との定期的な情報交換も行うことができた</li> <li>・コロナ禍で小学校の行事の見学は出来なかった</li> <li>・開催された会議には、参加することが出来た</li> <li>・要請があったものに関しては、受入れることが出来た</li> </ul>
募 集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援事業の充実</li> <li>・預かり保育内容の充実と延長保育の実施</li> <li>・広報活動の充実</li> <li>・通園バスの路線充実</li> <li>・保護者の協力を得ながら、保育活動や行事などを外部発信</li> <li>・バスコース、バス停の再確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回の外部講師による子育て講座の実施(継続)</li> <li>・松前町広報掲載やホームページ充実(継続)</li> <li>・園行事等の新聞記事への掲載頻度を高め幅広く発信する(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、外部講師による子育て講座は行うことができなかった</li> <li>・町広報には、園児募集の時期に掲載され、広く周知することが出来た</li> <li>・コロナ禍で園行事が縮小となり、新聞記事の掲載頻度は少なかった</li> </ul>

項目	行動計画（5カ年）	事業計画（令和3年度）	達成状況
管 理 運 営	・人員配置及び人事体制の充実	・人員確保に努め、ゆとりをもって配置できる体制をつくる（継続）	・園児数に対して、職員の配置は多少、余裕をもって配置することが出来た
	・職員として専門分野を学びながらのスキルアップ向上		
	・事件事故の未然防止の取り組みについて定期的な評価改善	・各マニュアルを周知し、再確認し合う（継続）	・職員に周知することが出来た
	・防犯、防災対策の充実を図りながらの訓練実施	・年12回の訓練を万全に取り組む（継続）	・防犯や防災に対する意識を高めながら、取り組むことが出来た
	・警察や消防など関係機関との連携強化		
	・定期的な点検と安全管理	・月1回の定期点検の実施と安全確認（継続）	・園内や園庭などの安全箇所を定期的に確認した
	・園庭、菜園の整備と充実	・定期的な整備（継続）	・定期的に整備することが出来た
	・遊具の安全管理と充実	・月1回の定期点検の実施と確認（継続）	・塩害で腐敗している遊具は、安全に配慮し、撤去するなどした
	・計画的な施設老朽化改修工事の実行	・冷房設備未設置クラスへの設置検討	・松前町に呼びかけ、設置検討してもらうよう呼びかけた※令和4年度に設置予定
	・自己評価による課題の明確化と研修の充実	・職員の自己評価を行い、課題の再確認と見直し（継続）	・自己評価を行い、個々の見直しを行った
・保護者アンケートの分析と活用	・園行事や給食のアンケートを実施し、保育に反映させる（継続）	・役員会での聞き取りや給食のアンケートなど行い、保育に反映することが出来た	
・職員の自己達成目標と連動させた学校自己評価の実施			

⑥函館大谷短期大学附属大野幼稚園

教育目標 生きる力を養い、思いやりの心をもつことができる、つよく、あかるく、なかよくのびる子

項目	行動計画(5カ年)	事業計画(令和3年度)	達成状況
教 育 ・ 保 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教教育の充実</li> <li>・生活体験、自然体験及び社会体験の実践</li> <li>・各部門との連携、交流促進</li> <li>・他校種(保育園・小・中・高)との連携強化</li> <li>・職員会議や園内研修の内容改善及び充実</li> <li>・毎年安定した園児数の確保と補助教員配置の充実</li> <li>・2歳児保育の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の礼拝、宗教行事(花まつり、報恩講)への参加</li> <li>・真宗保育理念「本願に生き、ともに育ちあう保育」に基づいた保育の実践</li> <li>・恵まれた環境を生かし、園庭での野菜や果物の栽培、収穫等の実践</li> <li>・学園の組織の一つとして、姉妹園との交流や短大、高校との交流について内容を充実させる</li> <li>・「大野地区地域連携協議会」の一員として、地域、学校、PTA等各関係機関とコミュニティースクールとの連携促進(継続)</li> <li>・コロナ禍における、新たな取り組みの検討</li> <li>・リモートによる研修に対応できる環境を整えていく</li> <li>・安心してできる落ち着いた環境を整え、きめ細やかな保育実践の内容充実</li> <li>・北斗市担当部署との十分な協議を重ね、実施可能か、今後の在り方を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生会の礼拝以外は、分散して行った。花まつりは自園で全園児参加で実施、報恩講は大郷寺にて行った(年長組のみ)</li> <li>・次年度継続</li> <li>・季節毎に収穫し、皆でいただき、食育活動に繋げていった</li> <li>・コロナ禍により、交流はできなかった。</li> <li>・コロナ禍ではあったが、年数回は対面での会議が開催され、参加した</li> <li>・大野農業高校との体験交流は、感染対策を講じた上で、年4回実施した</li> <li>・インターネットの環境を強化し、リモートによる研修に前年度より多く参加した</li> <li>・感染対策や環境構成を考慮し、保育の充実に努めた</li> <li>・次年度継続</li> </ul>
支 援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた保育の展開</li> <li>・特別な配慮を必要とする幼児の指導</li> <li>・幼児教育の無償化についての対応</li> <li>・預かり保育の内容充実</li> <li>・子育てに関する相談の実施</li> <li>・園開放での子育て相談や園行事への参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児一人ひとりの育ちに応じた保育実践の内容充実(継続)</li> <li>・個々の幼児の実態に即した個別の支援計画の作成と展開(継続)</li> <li>・各関係機関との連携強化</li> <li>・各市町村との連携強化を図り、保護者への適切な説明(継続)</li> <li>・預り保育の内容改善、充実した預かり保育の実践(継続)</li> <li>・新型コロナウイルスの感染対策を十分に講じた上で、保護者との情報交換の機会を設ける</li> <li>・教職員一人ひとりが親しみやすい丁寧な対応の実践(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人ひとりが子どもの育ちを把握し、保育内容の工夫や充実を図った</li> <li>・次年度継続</li> <li>・幼稚園の教職員の他、北斗市、七飯町の保健師と保護者、専門機関の職員も含めて連携を強化した</li> <li>・市町村からの文書を保護者に配布し、説明した</li> <li>・預かり保育利用の人数が年々増加傾向にあるため、内容や職員配置について検討を重ねた</li> <li>・コロナ禍により、個人懇談会等の機会が減り、対面での実施ができなかったため、電話や手紙により実施した</li> <li>・次年度継続</li> </ul>
募 集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園開放の内容検討及び充実</li> <li>・見学会の実施と内容改善</li> <li>・ホームページの内容検討及び有効活用</li> <li>・バスコース路線の再検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児募集に繋がるように内容を再検討し、広報活動も充実させる</li> <li>・通常保育の様子を紹介し、保育への参加を促す(継続)</li> <li>・年間を通しての見学を可能にし、明るく親しみやすい幼稚園の雰囲気作りの工夫(継続)</li> <li>・ホームページの内容改善</li> <li>・十分な保育時間の確保と広域に亘る路線の再検討を実施(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、一度も実施できなかった</li> <li>・緊急事態宣言延長のため見学会は中止。見学希望の方は、個別で受け付けて対応</li> <li>・次年度継続</li> <li>・次年度継続</li> <li>・各路線の運行状況を把握し、統合できるコースの見直しを検討した</li> </ul>

項目	行動計画（5カ年）	事業計画（令和3年度）	達成状況
管 理 ・ 運 営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の経験年数や特性を十分生かすよう考慮した配置を実施</li> <li>・適正な職員数の確保</li> <li>・教職員一人ひとりの良さが十分発揮できるような職場環境の確立</li> <li>・園児の事故の未然防止</li> <li>・防犯、防災対策の内容改善及び充実</li> <li>・避難訓練の内容改善及び実施</li> <li>・警察や消防をはじめ、地域との関係強化</li> <li>・定期的な安全点検及び補修の実施</li> <li>・自己評価及び第三者評価等の適正な実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を掛けて実践する部分と仕事の効率化を図れるところを見極め、業務内容を検討（継続）</li> <li>・有資格者の把握</li> <li>・充実感、達成感を持って仕事に取り組める職場環境を確立するため業務の見直しを実施し、早期離職の防止につなげていく</li> <li>・園舎、園の周辺等の環境見直し、安心、安全に生活できる環境の確立（継続）</li> <li>・地域の関係機関と連携を図り、緊急災害時に速やかに対応できるようなネットワークの確立（継続）</li> <li>・老朽化が目立つようになった施設、設備等の点検及び修繕の実施強化（継続）</li> <li>・自己評価による保育の改善、内容の充実</li> <li>・第三者評価の検討及び実施（継続）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や保育内容の見直し検討を重ねた</li> <li>・次年度継続</li> <li>・幼児理解や保育の準備に十分な時間を確保する工夫や、園務分掌の見直しを行った</li> <li>・教職員全員で点検を実施</li> <li>・コロナ禍により、対面でのやり取りは難しかったが、文書やメールでのやり取りを続け、次年度も継続していく</li> <li>・必要に応じて点検や修理を実施した</li> <li>・次年度継続</li> <li>・次年度継続</li> </ul>

## ⑦函館大谷短期大学附属港認定こども園

教育目標 生きる力を養い、思いやりの心をもつことができる、つよく、あかるく、なかよくのびる子

項目	行動計画(5カ年)	事業計画(令和3年度)	達成状況
教 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宗教教育の充実</li> <li>・ 姉妹園との交流</li> <li>・ 体験活動による教育と保育の充実</li> <li>・ 食育活動への取り組みと充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花まつり、移動灌仏、成道会及び報恩講などの仏教行事への参加(継続)</li> <li>・ 学園合同報恩講への参加(継続)</li> <li>・ プール指導の導入 英語指導、書道指導及び音楽指導(マーチング・和太鼓)の実施(継続)</li> <li>・ 園庭での野菜栽培や収穫などの実践、クッキングなど直接体験の実施(継続)</li> <li>・ 実習生、インターンシップの受入れと交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍により、中止の行事もあったが感染防止対策を講じ、実施した</li> <li>・ 感染拡大防止策を講じて実施した プール指導はサンスポーツクラブにて実施した(年長・年中児) マーチング・和太鼓は運動会や参観日に発表することができた</li> <li>・ 野菜栽培を通じて、食育活動に取り組むことができた</li> <li>・ 短大実習生のみ受入れ、交流した</li> </ul>
保 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接体験や本物体験を通して自然に興味と関心を持つ</li> <li>・ 小学校との円滑な接続と積極的な交流を持つ</li> <li>・ 外部講師を招聘しての園内研修会や園外研修会の充実</li> <li>・ 各種研修会への積極的な参加</li> <li>・ 給食指導と食育指導が一体となった食育計画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いちご狩り、りんご狩り及び函館山登山等の自然体験の実施(継続)</li> <li>・ 行事の見学と小学校へのスムーズな引継(継続)</li> <li>・ 園外、園内研修会の開催(継続)</li> <li>・ 各種研修会等への積極的な参加や自己研鑽の取り組み(継続)</li> <li>・ 野菜栽培と収穫の体験を通して食育活動を行う(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染防止対策を講じて実施した</li> <li>・ コロナ禍により、実施できず、年度末に入学予定小学校との引継ぎを行った</li> <li>・ コロナ禍により、園内研修会のみ時機を見て開催した</li> <li>・ オンラインでの研修となったことで、数多く参加することができた</li> <li>・ 収穫した野菜を調理し、食育活動を深めた</li> </ul>
支 援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て支援事業の充実</li> <li>・ 特別保育事業の充実</li> <li>・ 預り保育等の充実</li> <li>・ 幼児無償化への対応</li> <li>・ 子ども一人ひとりの多様性に配慮し、子育て相談及び園児の発達相談に取り組む</li> <li>・ 小学校との円滑な接続を目指し、積極的な人的交流を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大谷港子育てサロンの内容の充実(未就園児親子対象のあそび場開放、子育て相談及びミニ講演会開催など)(継続)</li> <li>・ 一時預かり保育の実施(継続)</li> <li>・ 預り保育及び延長保育の実施(継続)</li> <li>・ 対象者の申請(継続)</li> <li>・ 子育て相談、園児の発達相談の実施(継続)</li> <li>・ 個別支援の必要な子に対して、各関係機関との連携を図る(継続)</li> <li>・ 専門機関の定期的な訪問(継続)</li> <li>・ 個別指導計画の作成をする(継続)</li> <li>・ 小学校との円滑な接続ができるように、行事見学(運動会・発表会・参観日)などを通して人的交流を図る(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍により、利用人数は減少したが、ミニ講演会は感染防止対策を講じ、時機をみて開催した オンラインでの会議や研修、相談業務を実施した</li> <li>・ 利用人数は減少したが、感染防止対策を講じ、実施した</li> <li>・ 感染防止対策を講じ、実施した</li> <li>・ 対象者の申請を行った</li> <li>・ 各関係機関との連携を図り、保健師や療育支援センター等の定期的な訪問を受け、必要に応じて専門機関に繋げた</li> <li>・ 個別支援の必要な子には、毎月個別指導計画を作成し、保育を行った</li> <li>・ 今年度は実施できなかった</li> </ul>
募 集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て支援事業の充実</li> <li>・ 園見学の実施充実</li> <li>・ 預かり保育内容の充実と延長保育の実施</li> <li>・ 広報活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て講座の開催(継続)</li> <li>・ 園見学の随時実施と内容の充実を図る(継続)</li> <li>・ 預かり保育内容の充実を図る(継続)</li> <li>・ 延長保育の実施(継続)</li> <li>・ ウェブサイトの充実と新聞広告などの掲載による園のPR活動を実施(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍により、回数は減少したが、感染対策を講じ、時機を見て開催した</li> <li>・ 保護者説明のみ実施した</li> <li>・ 感染防止対策を講じて実施した</li> <li>・ 行事の中止や自粛もあり、例年に比べると減少した</li> </ul>

項目	行動計画(5カ年)	事業計画(令和3年度)	達成状況
管 理 ・ 運 営	・ 人員配置及び人事体制の充実	・ 人事確保に努め、ゆとりを持った職員数の配置ができる体制をつくる(継続)	・ 人員確保に努め、ゆとりを持った職員数の配置で保育を行うことができた
	・ 事件事故の未然防止の取り組みについて定期的な評価改善	・ 事故を想定した各マニュアル作成と改善(継続)	・ 各マニュアルを作成し、事件事故の未然防止に努めた
	・ 防犯、防災対策の充実を図り、訓練の実施	・ 毎月、避難訓練の実施(年2回消防要請)(継続)	・ コロナ禍により、年2回の消防要請は中止とし、毎月の避難訓練を実施した
	・ 警察や消防など関係機関との連携強化	・ 避難訓練や防犯教室などで地域の関係機関との連携強化を図る(継続)	・ 西警察署管内の『防犯メッセージリレー』に年長児が参加し、撮影収録した
	・ 定期的な点検と安全管理	・ 毎日の点検と安全な保育環境の整備(継続)	・ 毎日点検し、保育環境整備を行った コロナ禍により、1日4回の体温測定・手洗い・消毒・うがいの徹底・施設内の換気・除菌等によるコロナウイルス感染拡大防止に努めた
	・ 園庭の整備	・ 定期的な整備(継続)	・ 毎日点検し、安全管理に努めた
	・ 遊具の安全管理と充実	・ 毎日の安全管理点検の実施と確認(継続)	・ 同上
	・ 保育環境設備の充実	・ 冷房設備未設置クラスへの設置検討(継続)	・ 夏場の気温・湿度調査を実施、継続して検討した
	・ 自己評価による課題の明確化と研修の充実	・ 月1回の職員全員の自己評価の実施による保育の改善(継続)	・ 自己評価や園評価による保育の改善、内容の充実を図った
	・ 職員の自己達成目標と連動させた園評価の実施	・ 年1回の園評価の実施(継続)	・ 同上
・ 保護者アンケートの分析と活用	・ 園行事や給食アンケート調査の実施結果を保育に反映させる(継続)	・ アンケート調査を年2回実施、保育に反映させた	
・ 第三者評価の検討		・ 継続して検討した	

## (2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

本学園では、経営環境の変化とその対応策の認識を共有化するため、また私立学校法の改正に伴い第一次中期計画を策定し、令和2年度を初年度としてスタートした。

この計画は各部門ごとに「教育・保育」「支援」「募集」「管理・運営」の4項目についての重点目標、行動計画（5ヵ年）を策定した。

事業計画の進捗・達成状況等は①から⑦のとおり。

## (3) その他

特に記載すべき事項はありません。

### 3. 財務の概要

#### (1) 決算の概要

##### ① 貸借対照表関係

##### ア) 貸借対照表の状況と経年比較

貸借対照表は、当該会計年度末における資産・負債・純資産の額を記載しており、これにより学校法人の財政状態を明らかにし、その健全性や安定性を示します。

令和3年度の資産総額は3,063,964千円であり、前年度に比べ42,741千円減少しました。主な内容としては有形固定資産が減価償却等により90,133千円減少、特定資産が今期繰入により61,446千円増加、その他の固定資産が減価償却等により1,116千円減少、流動資産は未収入金の減少などで12,938千円減少しました。

負債総額は285,881千円であり、前年度に比べ59,100千円減少しました。主な減少の要因は借入金の返済、未払金及び預り金の減少によるものです。

総資産から総負債を引いた純資産の部は2,778,083千円であり、前年度に比べ16,359千円増加しました。この金額は基本金組入前当年度収支差額と一致します。

(単位 千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
固定資産	2,459,011	2,479,402	2,479,420	2,468,176	2,438,373
流動資産	536,487	540,648	564,101	638,529	625,591
資産の部合計	2,995,498	3,020,050	3,043,521	3,106,705	3,063,964
固定負債	277,831	257,759	239,418	218,759	211,170
流動負債	169,885	109,041	98,250	126,222	74,711
負債の部合計	447,716	366,800	337,668	344,981	285,881
基本金	3,868,837	3,911,665	3,999,473	4,031,550	4,039,676
繰越収支差額	△1,321,055	△1,258,415	△1,293,620	△1,269,826	△1,261,593
純資産の部合計	2,547,782	2,653,250	2,705,853	2,761,724	2,778,083
負債及び純資産の部合計	2,995,498	3,020,050	3,043,521	3,106,705	3,063,964

##### イ) 財務比率の経年比較

(単位 %)

比率名	財務比率算式	評価	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	平均
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	82.1	82.1	81.5	79.4	79.6	85.1
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	74.7	72.1	70.0	66.4	64.4	59.7
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	△	7.3	9.9	10.9	12.6	14.8	20.2
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	△	17.9	17.9	18.5	20.6	20.4	14.9
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	▼	9.3	8.5	7.9	7.0	6.9	6.0
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	▼	5.7	3.6	3.2	4.1	2.4	5.1
内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	△	6.3	13.3	16.2	18.9	23.5	26.3
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	△	0.4	0.6	0.6	0.7	0.9	1.8
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	△	85.1	87.9	88.9	88.9	90.7	88.9
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	315.8	495.8	574.1	505.9	837.4	294.0
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	14.9	12.1	11.1	11.1	9.3	11.1
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	△	890.5	1,129.8	1,796.0	2,027.0	1,954.5	537.8
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	97.2	97.6	97.8	98.0	98.2	97.1
減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価額}}$	～	42.2	44.2	46.1	50.4	50.5	54.5
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	35.1	40.4	41.1	44.1	45.7	70.8

※評価 △高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

※平均は令和2年度の全国の短期大学法人(97法人)の平均である。

※運用資産余裕比率の単位は(年)である。



## ②資金収支計算書関係

### ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

収入の部合計 1,656,180千円から前年度繰越支払資金を除いた令和3年度の資金収入額は 1,116,996千円となり、前年度より 60,279千円減少しました。

支出の部合計 1,656,180千円から翌年度繰越支払資金を除いた令和3年度の資金支出額は 1,102,121千円となり、前年度より 32,953千円減少し、繰越支払資金は 14,875千円増加しました。

(単位 千円)

収入の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学生生徒等納付金収入	363,944	382,644	354,447	309,775	295,592
手数料収入	7,914	7,353	6,526	5,811	5,965
寄付金収入	2,706	2,844	2,689	2,411	2,380
補助金収入	634,392	648,092	654,240	726,404	696,595
資産売却収入	0	0	0	191	164
付随事業・収益事業収入	55,966	58,518	48,719	49,570	55,281
受取利息・配当金収入	17	22	30	14	8
雑収入	81,202	29,301	29,304	61,296	2,941
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	46,869	41,511	27,671	26,600	28,348
その他の収入	53,389	119,735	71,707	86,142	98,331
資金収入調整勘定	△ 140,578	△ 101,309	△ 89,781	△ 90,939	△ 68,609
前年度繰越支払資金	393,160	417,349	468,988	496,983	539,184
収入の部合計	1,498,981	1,606,060	1,574,540	1,674,258	1,656,180

支出の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費支出	671,743	611,601	625,103	684,782	617,901
教育研究経費支出	182,554	190,723	189,505	191,817	193,554
管理経費支出	104,851	107,510	102,451	100,830	99,377
借入金等利息支出	1,179	950	811	742	682
借入金等返済支出	26,976	26,976	19,316	19,316	19,316
施設関係支出	37,174	31,133	55,734	15,378	15,070
設備関係支出	14,979	21,140	36,129	36,956	25,507
資産運用支出	81,346	81,395	32,252	61,885	61,446
その他の支出	39,532	94,526	45,997	64,106	75,103
資金支出調整勘定	△ 78,702	△ 28,882	△ 29,741	△ 40,738	△ 5,835
翌年度繰越支払資金	417,349	468,988	496,983	539,184	554,059
支出の部合計	1,498,981	1,606,060	1,574,540	1,674,258	1,656,180

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書の附属表の位置づけであり、当該会計年度の資金の流れを源泉別に活動区分ごとに表示するものです。教育活動による資金収支は本業の教育活動の資金収支の状況を表示し、施設設備等活動による資金収支は当年度に設備投資があったか、財源はどうであったかを表示し、更にその他の活動による資金収支は財務活動（資金の調達及び資金の運用に係る活動）を表示するものです。

令和3年度の教育活動資金収支差額は128,637千円、施設設備等活動区分資金収支差額は△92,988千円、その他の活動資金収支差額は△20,774千円となります。

(単位 千円)

科 目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動による資金収支						
教育活動資金収入計		1,146,124	1,128,653	1,095,925	1,144,697	1,056,689
教育活動資金支出計		959,148	909,834	917,058	977,430	910,833
差引		186,976	218,819	178,867	167,267	145,856
調整勘定等		△ 2,133	△ 5,607	△ 6,909	855	△ 17,219
教育活動資金収支差額		184,843	213,212	171,958	168,122	128,637
施設整備等活動による資金収支						
施設整備等活動資金収入計		0	99	0	10,762	2,229
施設整備等活動資金支出計		132,153	132,273	121,864	112,334	100,577
差引		△132,153	△132,174	△121,864	△101,572	△ 98,348
調整勘定等		0	△ 99	99	△ 5,965	5,360
施設整備等活動資金収支差額		△132,153	△132,273	△121,765	△107,537	△ 92,988
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		52,690	80,939	50,193	60,585	35,649
その他の活動による資金収支						
その他の活動資金収入計		13,089	15,842	17,297	37,924	35,034
その他の活動資金支出計		41,590	45,142	39,495	56,308	55,808
差引		△ 28,501	△ 29,300	△ 22,198	△ 18,384	△ 20,774
調整勘定等		0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額		△ 28,501	△ 29,300	△ 22,198	△ 18,384	△ 20,774
支払資金の増減額(小計+その他の資金収支差額)		24,189	51,639	27,995	42,201	14,875
前年度繰越支払資金		393,160	417,349	468,988	496,983	539,184
翌年度繰越支払資金		417,349	468,988	496,983	539,184	554,059

ウ) 財務比率の経年比較

(単位 %)

比 率 名	財 務 比 率 算 式	評価	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	平均
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	△	16.1	18.9	15.7	14.7	12.2	7.0

※評価 △高い値が良い ▼低い値が良い ~どちらともいえない

※平均は令和2年度の全国の短期大学法人(97法人)の平均である。

③事業活動収支計算書類

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

事業活動収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対する事業活動収入と事業活動支出の内容と基本金組入れ後の収支均衡を明らかにすることを目的とします。(学校経営の採算性をみる計算書)

教育活動収支は学校の「本業」ともいべき教育・研究活動等に関する収支(企業会計の営業損益)、教育活動外収支は学校の教育活動を側面から支える財務的な活動や収益事業活動に関する収支(企業会計の営業外損益)、特別収支は特殊な要因によって一時的に発生した学校の臨時的収支(企業会計の特別損益)を示します。

令和3年度の事業活動収入(教育活動収支)は1,058,407円となり、前年度に比べ86,378千円減少となりました。その主な内容は経常費補助金や雑収入(退職金財団収入)の減少によるものです。当年度の事業活動支出(教育活動収支)は1,043,329千円となり、前年度に比べ60,279千円の減少となりました。その主な内容は人件費(退職金)の減少によるものです。経常収支差額は14,405千円のプラスとなり、基本金組入前当年度収支差額も16,359千円プラス。最終的な当年度収支差額については6,241千円のマイナスとなりました。

(単位 千円)

科 目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	363,944	382,644	354,447	309,775	295,592
	手数料	7,914	7,353	6,526	5,811	5,965
	寄付金	2,706	2,844	2,689	2,411	2,380
	経常費補助金	634,392	647,993	654,240	715,833	694,529
	付随事業収入	55,966	58,518	48,719	49,570	55,281
	雑収入	81,202	30,950	29,704	61,385	4,660
	教育活動収入計①	1,146,124	1,130,302	1,096,325	1,144,785	1,058,407
	教育活動支出の部					
	人件費	670,246	612,495	626,478	683,528	618,847
	教育研究経費	275,527	285,518	289,007	295,158	298,902
	管理経費	130,926	131,615	125,795	124,922	125,580
	徴収不能額等	0	0	410	0	0
	教育活動支出計②	1,076,699	1,029,628	1,041,690	1,103,608	1,043,329
教育活動収支差額③(①-②)	69,425	100,674	54,635	41,177	15,078	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	17	22	30	14	8
	その他の教育活動収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計④	17	22	30	14	8
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	1,179	950	811	742	681
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	
教育活動外支出計⑤	1,179	950	811	742	681	
教育活動外収支差額⑥(④-⑤)	△ 1,162	△ 928	△ 781	△ 728	△ 673	
経常収支差額⑦(③+⑥)	68,263	99,746	53,854	40,449	14,405	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	191	163
	その他の特別収入	83	6,387	48	15,842	2,291
	特別収入計⑧	83	6,387	48	16,033	2,454
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	499	666	1,299	610	500
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計⑨	499	666	1,299	610	500
	特別収支差額⑩(⑧-⑨)	△ 416	5,721	△ 1,251	15,423	1,954
	基本金組入前当年度収支差額⑪(⑦+⑩)	67,847	105,467	52,603	55,872	16,359
基本金組入額合計⑫	△ 61,242	△ 42,828	△ 87,809	△ 38,798	△ 22,600	
当年度収支差額⑬(⑪+⑫)	6,605	62,639	△ 35,206	17,074	△ 6,241	
前年度繰越収支差額⑭	△ 1,327,659	△ 1,321,054	△ 1,258,415	△ 1,293,621	△ 1,269,826	
基本金取崩額⑮	0	0	0	6,721	14,474	
翌年度繰越収支差額⑯(⑬+⑭+⑮)	△ 1,321,054	△ 1,258,415	△ 1,293,621	△ 1,269,826	△ 1,261,593	
(参考)						
事業活動収入計⑰(①+④+⑧)		1,146,224	1,136,711	1,096,403	1,160,832	1,060,869
事業活動支出計⑱(②+⑤+⑨)		1,078,377	1,031,244	1,043,800	1,104,960	1,044,510

イ) 財務比率の経年比較

(単位 %)

比率名	財務比率算式	評価	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	平均
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	58.5	54.2	57.1	59.7	58.5	61.9
人件費依存比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	184.2	160.1	176.7	220.7	209.4	106.9
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	24.0	25.3	26.4	25.8	28.2	29.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	11.4	11.6	11.5	10.9	11.9	10.3
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	5.9	9.3	4.8	4.8	1.5	△ 0.5
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	△	31.8	33.9	32.3	27.1	27.9	57.9
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	～	55.4	57.3	59.7	62.6	65.6	31.0
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	～	11.0	11.5	11.8	11.5	12.6	11.4
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△	6.0	8.8	4.9	3.5	1.4	△ 1.7
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△	6.1	8.9	5.0	3.6	1.4	△ 3.5

※評価 △高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

※平均は令和2年度の全国の短期大学法人(97法人)の平均である。

(2) その他

①有価証券の状況

該当なし

②借入金の状況

借入先	期末残高	利率	返済期限	担保
株式会社北洋銀行	73,656 千円	0.89%	令和15年1月	なし
計	73,656 千円			

③学校債の状況

該当なし

④寄付金の状況

寄付金の種類	寄附者	金額	摘要
特別寄付金	函館大谷短期大学後援会	500 千円	
一般寄付金	函館大谷短期大学後援会	1,880 千円	
現物寄付金	個人	153 千円	教育研究用機器備品
同上	NHK文化放送研究所他	73 千円	図書
計		2,606 千円	

⑤補助金の状況

部 門	補 助 金 の 種 類	金 額	摘 要
函館大谷短期大学	国庫補助金	54,001 千円	
	地方公共団体補助金	4,992 千円	
	小 計	58,993 千円	
函館大谷高等学校	国庫補助金	1,523 千円	
	地方公共団体補助金	185,038 千円	
	小 計	186,561 千円	
函館大谷短期大学附 属認定こども園	地方公共団体補助金	7,531 千円	
	施設型給付費	171,007 千円	
	施設設備補助金	140 千円	
	小 計	178,678 千円	
函館大谷短期大学附 属松前認定こども園	地方公共団体補助金	11,020 千円	
	施設型給付費	68,320 千円	
	施設設備補助金	500 千円	
	小 計	79,840 千円	
函館大谷短期大学附 属大野幼稚園	地方公共団体補助金	4,488 千円	
	施設型給付費	80,909 千円	
	施設設備補助金	606 千円	
	小 計	86,003 千円	
函館大谷短期大学附 属港認定こども園	地方公共団体補助金	2,887 千円	
	施設型給付費	102,813 千円	
	施設設備補助金	820 千円	
	小 計	106,520 千円	
	合 計	696,595 千円	

⑥収益事業の状況

該当なし

⑦関連当事者等との取引の状況

該当なし

⑧学校法人間財務取引

該当なし

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

日本私立学校振興・共済事業団による「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）」において、本法人の経営状態区分は「A3」に分類されており、学園全体としては正常状態に位置しており、財政基盤は安定しています。

ただ、経常収支差額比率は年々減少しており、これからも更なる少子化による負の影響が予想される中で、学園内の各部門は教育・保育及び管理・運営等の明確な目標設定を行い、そして責任をもって諸活動に取り組んでまいります。そのためにも財政の安定化は私学経営の最重要課題であります。

今後も教育の理念・目的を追求し、それに基づいた教育環境・設備の充実を図り、学生生徒等の支援を適切に行っていきながら、学生、生徒及び園児の定員数の確保に努め安定した財政基盤を構築していく必要があります。